

大変な事が起きたー!!

ーでも、安心して下さい。ー

本堂正面の「鬼瓦」が雪害のため破損

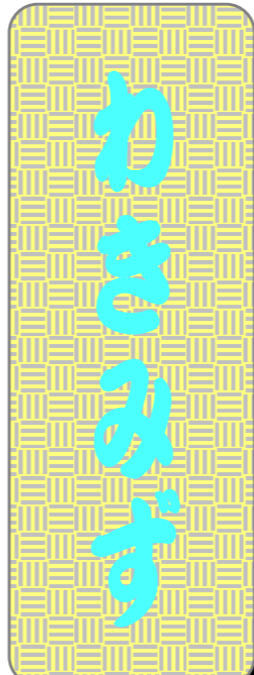
今年の一月の末頃降った湿った雪”べた雪”の仕業か、もしくは、去年のうち破損していたかもしれません。下の写真の様な状況でした。(彼岸より本堂のホワイトボードに写真を掲げております。)

二月二日境内前の除雪をしていた時に気がつきました。早急に修理をしないと、また雪が降つての工事の遅れ、腐食の進行が早まり、落下の恐れ等を考え、早速総代会に諮り、協議し、農協の共済保険で賄う様交渉致しました。

中の”心木”を新しい物に替え、銅板はそのままで修理にするか、全く新しい物にするかになり、破損が酷い様なので、新しい”鬼瓦”に替えることに決定致しました。

業者の見積もりは、新しい鬼にした金額約百二十万円、農協の審査により、全額農協共済保険で賄える事になりました。破損を発見してから約二ヶ月で完成を見る事が出来ました。普段は、高いと思つていた保険ですが、檀家の皆さんにも迷惑をかけず、”入つてて良かった”とつくづく思いました。

何事にも「保険」は、大事ですね、



お盆号

発行所 普門山 林泉寺
三戸町斗内字 寺牛25
〇一七九
二五二八五〇
啓誠



おもてなしの

こころ

○お茶とお菓子の頂き方

私たちがお客様をお招きするとき「今日はよく来て下さいました」と感謝の気持ちを込めてお茶を出します。もてなす側は相手の喜ぶ顔を思い浮かべながら、美味しく頂けるように準備をします。

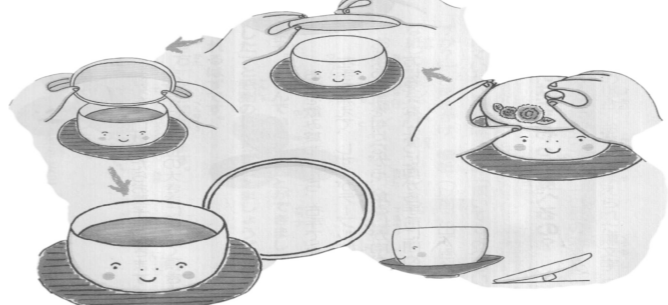
自分のために一番良いものを準備してくれた方に感謝してお茶やお菓子を頂きましょう。そして「美味しいお茶ですね」と感謝の言葉を伝えてみましょう。

日本茶のお茶碗にはふたがついている器と無いものがあります。訪問先で蓋付きのお茶を出されても困らないように、蓋付きのお茶の頂き方を確認しておきましょう。

最初に「いただきます」と言ってお辞儀をします。

①左手を茶碗に添え、右手でふたをつまみを持ち、②お茶碗の上でふたをやや垂直にしてふたについたしずくを落とします。

③そして、ふたの裏を上に向けて右横に置きます。この時、テーブルにしがくが落ちないように気を付けましょう。



お茶碗は右手で持ち、左の手の平で支えてお茶を頂きます。

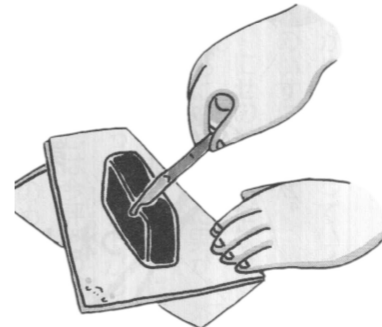
和菓子はどうやって食べるの？

和菓子の場合、お菓子の添えられた黒文字太めの楊枝のようなもので、一口位の大きさに切り分けて口に運びます。食べられずに残してしまつた場合やお菓子に手をつけていない場合は、頂いてもよろしいですか?と声をかけ、懐紙に包んで持ち帰りましょう。お菓子を準備してくれた方への心遣いです。

お茶を一口飲んだらお菓子を頂きます。お菓子は一口位の大きさに切つて頂きます。

お茶を飲み終わったら、右手で蓋を取り左手を添えて、しずくがテーブルに落ちないように気を付けながら、飲み口が向かい側の方に見えないように奥から手前に閉めます。

※作法は流派や地方によって多少異なる場合も有ります。





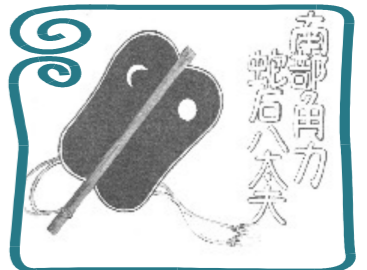
平成二十四年の十月には、本堂に向かって左側の門柱が根元から腐食が進み、倒れかかっていたので、危険だと思い故意に倒しました。この頃には、右側はまだ大丈夫でしたが、今年、四月の強風の為、ご覧の通り倒れてしまいました。本堂を建立した時のものだと思いますが、二十八年経ちました。

残念です・・・。

朽ち果てた門柱

―当寺のシンボルが消え、たい―

三戸むかしがたり



相撲が盛んだった斗内地区の力自慢南部の角力 蛇石八太夫のお話です。

三戸町の中心から南へ八キロぐらい行った所に、大舌という村があります。大舌からほど近い大石という所に、駒形神社があります。大舌からほど近い大石という所に、駒形神社があります。大舌からほど近い大石という所に、駒形神社があります。



むかし、むかし大舌という村が草深い山に囲まれ、三戸への道が満足になかった頃のお話です。この村に、八太夫という大男で力自慢の若者がいました。ある日、力があまる八太夫が大きな石をおもしろ半分にかついで、大谷地から乗上の方へ、のっし、のっしと歩いていきました。八、のどっこかわいできたなあ。水こでものんでいくがなあ。どっこいしよここ。石を道端におろして、その上に腰かけて汗をふきなからやすみました。



しばらくして出発しようとして石を持ち上げ、かつこうとしました。どうしたとでしよう。大力の八太夫でも、びくとも動きません。八、うーん」とふんばって、もう一度もち上げようとしてしまいました。石は土にすいついたようにビクとも動かないのです。八、「こりゃあ、おかしじや、この石こあただの石こでねえ神様でもついでいたのだこつた。知らなえて。おらあ腰こかげでしまっただじや。」八太夫は大変な事をしたと考えました。八、「このままであどつたら罰ああだるがもしねえ。」と考えました。早速、森の中へ入って木を切つてきて、粗末だが心のこもったお堂をつくつて、石の上に建てました。そうして、ていねいに押んでから乗上の方へ行きました。それからしばらくしたある日のこと八太夫は牛の背に大豆を六俵積み、自分も四俵ほど「やへうま」で背負つて、三戸で売ろうとけわしい山坂道を越えて、ようやく熊原川べりの鹿角街道に出ました。牛を引いて、のっせえまです。武、うむ、大変な力である。それ程力があるなら、百姓牛方などしないで、相撲とりにもなつたら成功するであろう。どうじゃ相撲とりにならぬか。」と話かけました。

紙面が足りなくなりました。



ちやうど川端で道巾の狭い所なので、二人が行き違つことは出来ません。武士は「これ、これ、牛方そこをのけ」八太夫は武士の方でちよつと道をゆずつてくれればと思いましたが、その頃は武士



これを見た武士は驚きました。牛に六俵、自分も四俵の大豆を背負つてのことなので、その怪力にびっくりしたので。武士「これ、その方、どこの者で名は何と申すか。」八、はい、私は、

去年配った

六地藏の手ぬぐいが

こんなになっちゃった

二年ぐらい前に紹介しました、カレンダーを額に入れて壁掛けにしていた檀家さんがいました。今回の手ぬぐいが、今配った手ぬぐいになります。有る檀家さんを訪ねたら、去年配った、六地藏の手ぬぐいをパッチワークキルトにして玄関に飾つてありました。毎朝、出かける時に孫さん達に読ませてから出かけるそうです。この他にも、三件廊下とか、居間とかに貼っている家がありました。いろいろな使い方があります。



今年の初盆の方

平成二十七年 六月二十六日より
平成二十八年 六月二十五日まで
逝去された方です。

へお盆(八月十二日)までに
四十九日を終えられた霊位です

お施食会のご案内

八月十四日(日曜日)
午前十一時より

本堂に於いてご供養します。
供養料 一千元以上
同封の申し込み用紙に
お名前を記入し
供養料を添えて
当日本堂受付まで
お持ちください。

※尚、当日お出でにならない方は
前もつて、随時受付いたしますので
お申し込みください。

涼風

